

射水市庄西コミュニティセンター

◆事業の目的

里山の営みや川の恵み、生き物の生態を学習することで自然界の生命や恩恵にふれる体験をする。

◆事業の流れ

実施日	活動名	場所	参加人数
6月15日(金)	ホタル観察会	射水市青井谷地区	54名
11月24日(土)	庄川を遡上する鮭の生態を学ぶ	高岡市石瀬地区	19名

◆事業の様子

☆ ホタル観察会

射水市青井谷地区の浄土寺公民館で、講師の山下先生から、手作りのパネルを使ってホタルの一生についてお話を聞く。子ども達からも活発な質問が飛び出し、観察のルールを確認してから、すっかり暗くなった里山の集落を歩いていると、幽かに光るホタルを見つけて歓声があがる。集落の奥へ進むにつれ、ホタルは群れとなって、まるで川の中から湧き出るように見える。

また、ホタルブクロの花や太いねぎの茎にホタルを入れて、植物の繊維を透かして光るホタルの発光の強さに、子ども達は改めて驚いていた。



☆ 庄川を遡上する鮭の生態を学ぶ

自分たちの生活圏内を流れる庄川を、産卵のために鮭が遡上することを知らず子ども達は少ない。少し前までは、橋の上から川面を覗くと、海から川の上流を目指して遡上する鮭の群れを観察できたものだが、近年は海水温の上昇が原因か、数が減ってきているという。放流されて、あちこちの海を回遊し、生まれた川をまちがえず帰ってくる毎年繰り返される自然界の営みに、子ども達は初めて目を向けたようだった。また胴長を着て生簀に入り鮭をつかむ体験もした。初めは及び腰だった子ども達も、慣れるにつれて鮭を掴み、生命の力強さを感じていた。



◆事業の成果と課題

昔の子どもは、自然の中で自分たちで遊びや学びを体験したが、今は事情が違う。そこにあるのに子ども達が知らずにいる自然を体験させ、何かを感じさせ気付かせるのが、まわりの大人の仕事になった。それならば、いかに押しつけではなく、子ども達が自然に興味を持つプログラムを組むかが考えどころである。